

令和 7 年度
長崎県研究事業評価委員会
環境保健分野研究評価分科会
報 告 書

令和 7 年 9 月 1 0 日

長崎県研究事業評価委員会環境保健分野研究評価分科会は、「長崎県政策評価条例」、「政策評価に関する基本方針」に基づき、長崎県研究事業評価委員会委員長から依頼があった研究内容について調査・審議を行ったので、次のとおり報告するとともに、意見を申し述べる。

令和7年9月10日

長崎県研究事業評価委員会

環境保健分野研究評価分科会

委員長 澤井 照光



1. 評価日及び場所

令和7年8月26日（火） 於：県庁313会議室

2. 審議案件（3件）

事前評価 2件

事後評価 1件

3. 分科会委員

氏 名	所属・役職	備 考
澤井 照光	長崎大学生命医科学域・教授	委員長
岡田 二郎	長崎大学総合生産科学域・教授	副委員長
岸川 直哉	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科・教授	
小崎 一弘	公益社団法人 長崎県食品衛生協会・理事検査部長	
馬渡 憲次	三菱重工業株式会社 総合研究所・化学研究部長	
山本 利典	西部環境調査株式会社・代表取締役社長	

4. 総合評価

総合評価の段階は、下表のとおりであった。

評価対象		総合評価※				課題数
種類	時点	S	A	B	C	
経常研究	事前	0	2	0	0	2
	途中	0	0	0	0	0
	事後	0	1	0	0	1
合 計		0	3	0	0	3

※ 総合評価の段階

(事前評価)

S＝積極的に推進すべきである

A＝概ね妥当である

B＝計画の再検討が必要である

C＝不適當であり採択すべきでない

(途中評価)

S＝計画以上の成果を上げており、継続すべきである

A＝計画どおり進捗しており、継続することは妥当である

B＝研究費の減額も含め、研究計画等の大幅な見直しが必要である

C＝研究を中止すべきである

(事後評価)

S＝計画以上の成果を上げた

A＝概ね計画を達成した

B＝一部に成果があった

C＝成果が認められなかった

研究テーマ別評価一覧表

時点	研究テーマ名	研究機関	総合評価	
			機 関 長 自 己 評 価	分 科 会 評 価
事前	長崎県における気候変動影響の将来予測解析体制の構築	環境保健研究センター	A	A
事前	アニサキスアレルギーのリスク低減化に向けた食品中アニサキス検査法の確立	環境保健研究センター	A	A
事後	COVID-19をモデルとした長崎県における感染症疫学解析体制の構築	環境保健研究センター	A	A

5. 研究テーマ別コメント

研究テーマ名 (研究機関)		長崎県における気候変動影響の将来予測解析体制の構築 (環境保健研究センター)			
事業区分		経常研究（基盤）	評価区分	事前評価	
研究概要		長崎県内の熱中症救急搬送者数に関する将来予測解析を行い、得られた成果を行政や県民に還元するとともに他分野への予測に向け、所内の解析体制を構築する。			
長崎県総合計画 チェンジ&チャレンジ 2025での位置づけ		柱3 夢や希望のあるまち、持続可能な地域を創る 基本戦略3-3 安全安心で快適な地域を創る 施策5 脱炭素社会の実現を目指した快適なライフスタイルの普及			
		必要性	効率性	有効性	総合評価
評点及び 総合評価	自己評価	S	A	A	A
	委員会評価	S	A	A	A
委員会総合評価が 自己評価と変わった理由		委員会総合評価と自己評価は同一			
意見	必要性	深刻化の一途を辿る地球温暖化に対して、長崎県として将来予測解析により適応策を講じることは必要であり、令和6年度に熱中症による救急搬送数が過去最多を記録した本県において、救急搬送者数の将来予測を試みるもので、必要性は極めて高いと考えられる。			
	効率性	過去のデータの蓄積を利用できる点は有効であり、国立環境研究所や他機関と連携して先行の研究データを活用することは、長崎県で実施されていない熱中症救急搬送者数の将来予測解析体制の構築において、効率的である。			
	有効性	熱中症救急搬送者数の将来予測を長崎県で実施することにより、県内の救急医療体制の充実や県民の熱中症対策への意識向上などが見込まれ、地球温暖化が進む中、県民の安全・安心な生活の実現に寄与する研究といえる。また、構築したモデルは農林水産業への影響予測や自然災害のリスク予測など、他分野へ活用できる可能性があり、有効性は高いと考えられる。			
	総合評価	近年の異常高温により県民の温暖化への危機意識が高まる中、熱中症救急搬送者数の将来予測は重要な研究であり、県民の意識向上や予防行動の促進、消防局や救急医療体制への負荷低減にも寄与することが期待される。また、本研究を契機に分野横断的な研究が発展していくことに期待したい。			

研究テーマ名 (研究機関)		アニサキスアレルギーのリスク低減化に向けた食品中アニサキス検査法の確立 (環境保健研究センター)			
事業区分		経常研究（基盤）		評価区分	事前評価
研究概要		アニサキスアレルギーのリスク低減化に向けて、食品中のアニサキス検査法を確立し、その技術を活用して県内水産食品における実態調査とリスク低減化処理の検討を行う。			
長崎県総合計画 チェンジ&チャレンジ 2025での位置づけ		柱3 夢や希望のあるまち、持続可能な地域を創る 基本戦略3-3 安全安心で快適な地域を創る 施策2 食品の安全・安心の確保と消費生活の安定・向上			
		必要性	効率性	有効性	総合評価
評点及び 総合評価	自己評価	S	A	A	A
	委員会評価	A	A	A	A
委員会総合評価が 自己評価と変わった理由		委員会総合評価と自己評価は同一			
意見	必要性	アニサキスアレルギー症は症例数が少なく、食品中のアニサキスアレルゲンを検査する方法も確立されていない。アニサキスアレルギーは虫体の生死に関わらず発症し、アナフィラキシーショックに陥る可能性があり、リスク低減化を目的とした本研究は、水産県である長崎県が水産物の安全・安心を確保するために必要な研究であると思われる。			
	効率性	日常業務で使用しているLC/MS/MSを活用することで、複数のアレルゲンを同時に分析できるため、有効かつ費用の面でも効率的である。また、既知の低アレルゲン化法に対する有効性の検証も計画されており、研究成果は学会等での発表、及び論文掲載が予定されており、効率性も高いと考えられる。			
	有効性	アニサキスアレルゲンの定量分析法を確立することは、アニサキスアレルギー患者が喫食できる水産食品の拡大やアレルギー症状の治療に対して有効である。全国に先駆けて実施される本研究は、他のアレルゲン検査等に対しても応用可能になると期待される。			
	総合評価	水産県である長崎県において、食品中のアニサキス検査法を確立し、アニサキスアレルギーのリスクの低減化に関する研究を行うことは、魚介類を多く食する県民の健康を守る上で重要であり、食品の安全・安心の確保につながる課題として、特に推進すべきである。			

研究テーマ名 (研究機関)		COVID-19をモデルとした長崎県における感染症疫学解析体制の構築 (環境保健研究センター)			
事業区分		経常研究（基盤）		評価区分	事後評価
研究概要		COVID-19の長崎県内陽性株の次世代シーケンサーによる分子疫学解析を行い、記述疫学と併せて総合的解析を実施し、成果を行政や県民に還元するとともに、疫学解析技術を他感染症や新興感染症に応用する。			
長崎県総合計画 チェンジ&チャレンジ 2025での位置づけ		柱3 夢や希望のあるまち、持続可能な地域を創る 基本戦略3-1 人口減少に対応できる持続可能な地域を創る 施策3 地域の医療、介護等のサービス確保			
		必要性	効率性	有効性	総合評価
評点及び 総合評価	自己評価	A	A	A	A
	委員会評価	S	A	A	A
委員会総合評価が 自己評価と変わった理由		委員会総合評価と自己評価は同一			
意見	必要性	新興感染症に備えた体制構築は必要性が高く、県内全域から収集された臨床検体のゲノム解析とともに、HER-SYS(新型コロナウイルス感染者等情報把握・管理支援システム)に蓄積された膨大な患者データを用いて複合的な疫学解析を実施した本研究は長崎県が取り組むべき必要性の高い研究であった。			
	効率性	分子疫学解析については、目標を大きく上回る検体数の解析が実施され、解析能力の向上が認められた。また記述疫学解析においては、大学との連携により18万件を超えるデータの解析が進められており、効率的に検討が進められたものと判断できる。			
	有効性	分子疫学解析と記述疫学解析に関する成果は十分得られ、将来、新興感染症が発生した際に利用される貴重なデータを蓄積することができた。また、新興感染症に備えた検査体制を本県においても整備するという観点から鑑みても有効性の高い研究であったと考えられる。			
	総合評価	COVID-19の教訓を踏まえた研究として、多くの重要な知見が得られ、他の新興感染症の流行にも有効な知見を与えるものと評価できる。新興感染症の発生に備えた体制の構築・強化に貢献した本研究の意義は大きい。			

6. 分科会総評

- 気候変動の影響は、熱中症をはじめ、農林水産業や防災対策など幅広い分野に及んでいるため、分野横断的な研究への発展が望まれる。
- 限られた予算や体制の中で DX や AI などの技術を活用し、効率的に研究を進めていくことが重要である。
- 今後新たな知見が得られた際には、県内事業者が適切に対応を検討できるよう、速やかな情報発信に期待したい。
- 終了したテーマにおいても、研究を通して得られたデータを活用し、さらなる知見の獲得に期待したい。

(参考) 環境保健分野研究評価分科会評価（経常研究）一覧表

時点	研究テーマ名	項目	評価段階
事前	長崎県における気候変動影響の将来予測解析体制の構築 熱中症救急搬送者数将来予測解析を基盤とした他分野への展開	必要性	S
		効率性	A
		有効性	A
		総合評価	A
事前	アニサキスアレルギーのリスク低減化に向けた食品中アニサキス検査法の確立	必要性	A
		効率性	A
		有効性	A
		総合評価	A
事後	COVID-19をモデルとした長崎県における感染症疫学解析体制の構築	必要性	S
		効率性	A
		有効性	A
		総合評価	A